

# 株主通信

第18期 平成25年4月1日～平成26年3月31日

証券コード:2479

“知”がエンジニアリングを研ぎ澄ます。

「知識集約型企业」ジェイテック。



TECHNICAL OUTSOURCING COMPANY  
**JTEC CORPORATION**

## トップインタビュー



代表取締役社長  
藤本 幸之助

Q1

第18期業績は、売上高、利益ともに期初予想から大幅に増額修正されましたが、その背景についてお聞かせください。

A1

第18期の日本経済は、政府による各種政策の成果が発現する一方、円安による輸出産業を中心とする企業収益の改善や個人消費の持ち直しから、景気は緩やかな回復傾向が見られました。こうした中、当社グループにおいては、主力事業である技術職知財リース事業の主要取引先である大手製造業による技術開発や製品設計に対応可能な高いスキルを持ったテクノロジストへのニーズは高く、年間を通して高い稼働率を維持することが出来ました。平成24年10月に連結子会社化した建築技術者集団の株式会社エル・ジェイ・エンジニアリングも通期で寄与し、第18期上半期業績については昨年10月に、第18期通期業績については今年4月にそれぞれ、業績予想を上方修正しました。

これらの結果、売上高3,405百万円、営業利益95百万円、経常利益94百万円、当期純利益65百万円となり、3期連続の大幅な増収増益を達成できました。

Q2

自動車業界向けのほか、IT分野、電機業界向けなど全般でテクノロジストの高い稼働率を維持されているようですが、その概要をお聞かせください。

A2

自動車業界はメーカー、関連部品業界などそ野が広く、その全般で新規開発ニーズが高まっています。とくにハイブリッド車は適応車種が上級車種に広がっていることが追い風です。やはり適応範囲が広いIT分野ではゲーム系や組み込み型部品の開発ニーズが高まっています。電機業界向けではエネルギー関連のインフラ系などでテクノロジストの採用が活発です。こうした中、当社では特定業種に売上高が傾斜しすぎない全方位型営業を経営の主眼に置いています。テクノロジストの稼働率は年間ベースで98%以上という高水準なものになりました。

Q3

第19期の業績予想と今後の収益向上策、および人員採用動向についてお聞かせください。

A3

第19期業績につきましては、売上高3,670百万円、営業利益110百万円、経常利益110百万円、当期純利益80百万円と4期連続の増収増益を計画しております。年間ベースで98%超の稼働率が続く中、第18期は売上高営業利益率が前期の2.4%から2.8%に向上しましたが、採用費用をうまく抑制した施策が功を奏しました。引き続き経費のコントロールに注力するとともに、高い稼働率を背景にテクノロジストの単価アップに向けた施策を実施します。すでに、一部では取引先との交渉にはいっており、利益の向上に努めます。

連結ベースでの人員については、この4月に新たに24名の新卒テクノロジストを採用し、4月1日現在、519名のテクノロジストを擁しています。10月には6名の新卒者採用を予定しております。

Q4

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、連結子会社の株式会社エル・ジェイ・エンジニアリングの動向および今後有望な分野をお聞かせください。

A4

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催が決定したことで、建築系のニーズが動き出しています。首都圏を中心に人材獲得競争が始まっており、事業環境的にはフォローの風が吹いています。建築技術者集団のエル・ジェイ・エンジニアリングは大手建材メーカーと強いパイプを持っているほか、ゼネコンとの関係も良好で着実な成長が見込まれます。

このほか、ジェイテック本体ではインフラシステムのビジネスがIT系で出てくることが見込まれるほか、ロボット関連では介護機器分野などで営業活動を展開しており、こうした有望成長分野を確実にキャッチアップしていきたいと考えています。

Q5

5月20日には今後3カ年の中期経営計画を発表されましたが、その概要をお聞かせください。

A5

「知財の力で未来を創る」を中期経営計画の基本方針に、企業価値、株主価値の向上を図ります。具体的には技術者の採用に当たっては能力を重視し、成長発展に向け収益基盤の強化を目指す一方、第18期で実現した利益剰余金のマイナス解消で、財務基盤の一層の強化と安定した株主還元

を推進します。数値目標としては目標最終年度の平成29年3月期に売上高4,123百万円、営業・経常利益176百万円、当期利益120百万円を掲げています。

Q6

最後に改めて、株価流動性のアップと今後の株主還元姿勢を含めて、株主・投資家の皆様にメッセージをお願いします。

A6

株主、投資家の皆様には日頃のご支援に対して厚く御礼申し上げます。おかげさまをもちまして、第17期に続き、第18期も業績の上方修正を発表することができ顕著な利益水準の上昇につなげることが出来ました。第19期は引き続き2ケタの増益率計画のもと、経営陣・社員が一丸となって事業拡大にまい進してまいります。

当社株式の分布状況の改善と流動性向上を目的として、昨年9月と11月にそれぞれ株式の立会外分売を実施いたしました。配当につきましては、第18期の年間1円に続いて第19期も年間1円を予定させていただいております。

引き続き、収益基盤の強化と拡充を図り、積極的な事業展開に備えるための内部留保に努めつつ、連結配当性向50%を目標として、業績等を総合的に勘案しながら株主様に対する利益還元を安定的かつ継続的に行ってまいりたいと考えております。

なお、平成26年6月27日開催の定時株主総会において、代表取締役を退任いたしました。利益剰余金のマイナス解消など一定の職責を果たした為、任期満了をもって退任することになり、後任には前相談役の藤本彰が就任いたしました。

株主、投資家の皆様には引き続き温かいご支援をよろしく願いいたします。

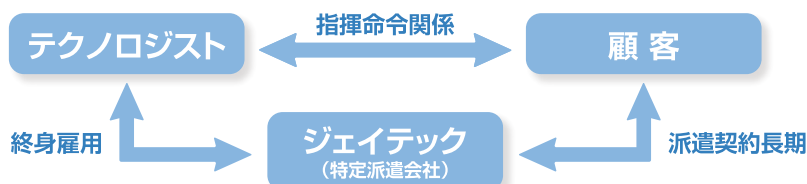
## 事業紹介

あらゆる課題に応える“技術商社”として、高付加価値なソリューションを提供します。

### ● 技術職知財リース事業 (特定派遣及び請負・業務委託)

技術商社としての核となる機械設計開発、電気・電子設計開発、ソフトウェア開発を中心に技術開発分野における多様な要素技術、応用技術をラインナップ。

技術職知財リース事業として、お客様のあらゆる技術的課題に柔軟に対応する高次元なサービスを提供しています。



当社テクノロジスト(技術職社員)を  
顧客企業の開発プロジェクトへ派遣

顧客企業の開発案件を、  
社内のテクノロジストチームにて受託・請負開発

## 提供技術バリエーション

### 主要技術分野

- 自動車関連
- 航空宇宙関連
- 産業用機器関連
- 精密機器関連
- 情報通信機器関連
- 電気・電子機器関連
- 半導体関連
- 情報処理関連

### 業務内容例

#### 機械設計開発

##### Mechanic

- 輸送用機器 (エンジン・ボディ・EV部品)
- 航空機 (機体・補助装置)
- 半導体製造装置 (露光装置・エッチング装置)
- 映像音響機器 (テレビ・デジタルカメラ)
- 一般産業用機械・装置 (産業用ロボット・エレベータ)
- 自動サービス機器 (ATM・貨幣処理機)
- 事務用機器 (複写機・事務用プリンタ)
- 民生用電気機器 (空調機器・洗濯機)

#### 電気・電子設計開発

##### Electronic

- 映像音響機器 (放送用テレビカメラ・家庭用ゲーム機)
- 計測・分析機器 (精密測定機)
- コンピュータ関連 (ルータ・モニター)
- 一般産業用機械 (産業用ロボット・包装機械)
- 電子部品・半導体 (イメージセンサ・メモリ)
- 輸送用機器 (カーナビ・オーディオ)
- 医療用機器 (X線装置・電子応用機器)
- 無線通信機器 (携帯電話)

#### ソフトウェア開発

##### Software

- 組込系ソフトウェア (マイコン応用・制御システム)
- パッケージソフト (営業支援・顧客管理)
- オープン系システム (生産管理・販売管理)
- スマートフォンアプリケーション (Android)
- 汎用機系システム (財務・会計)
- クラウドシステム
- 通信ネットワーク (金融・保険)
- Web系システム (商用サイト)

## 当社の特色

『技術商社』としての価値を高めるための、人を活かす環境と特徴的な教育人事制度を用意しています。

### ● 教育制度

高い人間力と高度な専門性に裏付けられた創造力こそ、ジェイテックの目指す"テクノロジストのあるべき姿"という思い。この思いは当社の様々な教育制度に強く反映されています。

#### プレマネージャー制度

特定の分野に特化した技術だけでなく、幅広い視野と経営者の思考を併せ持ったテクノロジストを養うことを目的としています。

#### 社外留学制度

国内外の大学院やビジネススクールに留学できる制度で、将来を担う幹部候補生の育成を目的としています。

#### 海外研修

半年間ホームステイをしながら語学の修得をおこなう制度で、グローバルな人財育成を目的としています。

#### 社内講習会

定期的に講習会を開催しており、ベテランテクノロジストが技術や知識を若手に伝授することを目的としています。



### ● 教育体制

テクノロジストの入社から業務開始、業務終了まで万全の教育・フォロー・サポート体制。

#### コンプライアンス教育・セキュリティ教育・安全教育

お客様の機密文書等を扱うことが多いため、全テクノロジストに対して徹底した教育を行います。また事故を未然に防ぐための安全教育も実施しています。

#### 技術研修

テクノロジスト一人ひとりの希望を考慮した個別の研修計画を作成し、中・長期的にスキルアップを図ります。

#### カスタマイズ研修

お客様の開発環境にあわせたツール操作や関連知識の習得を契約開始までの期間で行います。

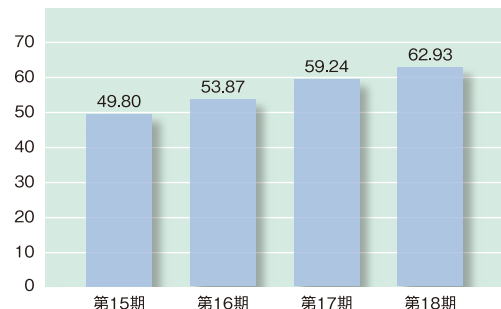
#### 定期面談

様々な目線からの評価とフィードバックを定期的 to 実施することで、何が得意で何が苦手なのかを“本人が”知ることができ、思い描くキャリアプランへと導きます。



## 連結財務諸表

### ● 1株当たり純資産 (単位:円)



\*平成23年4月1日をもって1株を2株に、平成25年4月1日をもって1株を200株に株式分割しております。なお、数値はこれらを遡及修正して算定しております。

### ● 資産

当連結会計年度末の資産総額は1,229百万円となり、前連結会計年度末より142百万円の増加となりました。これは主に現金及び預金の増加、売掛金の増加によるものです。

### ● 負債

当連結会計年度末の負債総額は691百万円となり、前連結会計年度末より109百万円の増加となりました。これは主に短期借入金の増加、退職給付に係る負債の増加、賞与引当金の増加によるものです。

### ● 純資産

当連結会計年度末の純資産は538百万円となり、前連結会計年度末より32百万円の増加となりました。

### ● 連結貸借対照表(要旨) (単位:百万円)

	当期 平成26年3月31日	前期 平成25年3月31日
資産の部		
流動資産	1,120	969
固定資産	108	118
資産合計	1,229	1,087
負債の部		
流動負債	521	463
固定負債	169	118
負債合計	691	581
純資産の部		
株主資本	548	491
資本金	255	255
資本剰余金	240	248
利益剰余金	53	△11
自己株式	△0	△0
その他の包括利益累計額	△22	3
新株予約権	0	0
少数株主持分	12	10
純資産合計	538	505
負債純資産合計	1,229	1,087

### ● 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)

	当期 平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで	前期 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	59	54
投資活動によるキャッシュ・フロー	0	89
財務活動によるキャッシュ・フロー	52	△36
現金及び現金同等物の増減額	113	107
現金及び現金同等物の期首残高	532	424
現金及び現金同等物の期末残高	646	532

\*単位未満は切り捨てて表示しております。

## ● 連結損益計算書 及び 連結包括利益計算書(要旨)

### (連結損益計算書)

(単位:百万円)

	当期 平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで	前期 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで
売上高	3,405	2,690
売上原価	2,625	1,994
売上総利益	779	696
販売費及び一般管理費	684	631
営業利益	95	64
営業外収益	0	3
営業外費用	1	1
経常利益	94	66
特別損失	4	—
税金等調整前当期純利益	90	66
法人税、住民税及び事業税	25	19
法人税等調整額	△2	△2
少数株主損益調整前当期純利益	67	49
少数株主利益	2	2
当期純利益	65	47

### (連結包括利益計算書)

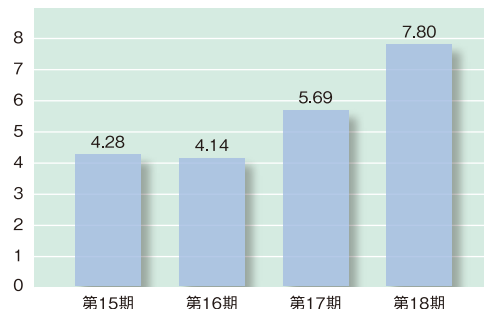
(単位:百万円)

	当期 平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで	前期 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで
少数株主損益調整前当期純利益	67	49
その他の包括利益	1	1
包括利益	69	51
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	67	48
少数株主に係る包括利益	2	2

※単位未満は切り捨てて表示しております。

## ● 1株当たり当期純利益

(単位:円)



\*平成23年4月1日をもって1株を2株に、平成25年4月1日をもって1株を200株に株式分割しております。なお、数値はこれらを遡及修正して算定しております。

## ● 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、得られた資金は59百万円となりました。これは主に売上債権の増加額38百万円、未払費用の減少額34百万円、法人税等の支払額31百万円により資金が減少したものの、税金等調整前当期純利益90百万円、賞与引当金の増加額23百万円、退職給付に係る負債の増加額22百万円、未払金の増加額13百万円等により資金が増加したことによるものです。

## ● 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、得られた資金は0.4百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出2百万円、無形固定資産の取得による支出2百万円等により資金の減少があったものの、敷金及び保証金の回収による収入6百万円により資金が増加したことによるものです。

## ● 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、得られた資金は52百万円となりました。これは主に配当金の支払額8百万円による資金が減少があったものの、短期借入金の増加額62百万円により資金が増加したことによるものです。

## 会社概要 (平成26年3月31日現在)

### ● 会社概要

会 社 名 株式会社ジェイテック  
 所 在 地 〒104-0031  
 東京都中央区京橋1-10-7  
 KPP八重洲ビル  
 TEL:03-6228-7273 FAX:03-6228-8866  
 設 立 平成8年8月16日  
 資 本 金 2億5,535万円  
 社 員 数 357名  
 事 業 内 容 技術職知財リース事業(特定派遣及び請負業務)

機械設計開発  
 電気・電子設計開発  
 ソフトウェア開発  
 ソフトウェアの自社開発及び受託開発  
 有料職業紹介事業  
 各種技術サービス  
 技術教育サービス  
 総合コンサルティングサービス

関 連 会 社 株式会社ジोटレーディング  
 株式会社エル・ジェイ・エンジニアリング

### ● 役 員 (平成26年6月27日現在)

代表取締役社長	ふじもと あきら 藤本 彰
取 締 役	さの せいちろう 佐野 清一郎
取 締 役	チエ ぜヒョン 崔 在亨
常 勤 監 査 役	こがい やすお 小貝 恭生
常 勤 監 査 役	やまだ しゅんすけ 山田 峻介
監 査 役	おの やすひと 尾野 恭史

### ● 営業所一覧(全国11拠点)



本社



## 株式情報 (平成26年3月31日現在)

### ● 株式の状況

発行可能株式総数	28,800,000株
発行済株式の総数	8,349,600株
株主数	3,185名

### ● 大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
藤本 彰	1,724,100	20.65
藤本 信	911,000	10.91
藤本 幸之助	742,100	8.89
小貝 恭生	281,500	3.37
戸塚 大介	179,200	2.14
藤本商事株式会社	164,800	1.97
ジェイテック従業員持株会	109,400	1.31
日本証券金融株式会社	108,800	1.30
カブドットコム証券株式会社	95,200	1.14
小島 康行	72,800	0.87

(注) 1. 持株比率の表示単位未満の端数は、切り捨てて表示しております。  
2. 持株比率は自己株式(2,800株)を控除して計算しております。

### ● 株主メモ

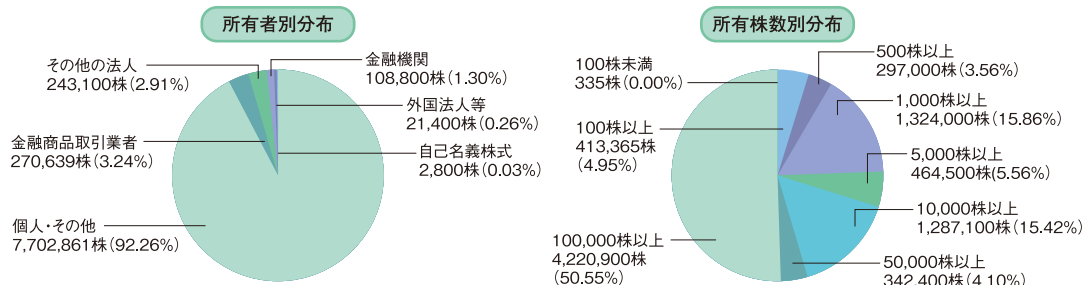
事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL:0120-232-711 (通話料無料)
上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所JASDAQ市場(グロース)
公 告 の 方 法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.j-tec-cor.co.jp/ir/">http://www.j-tec-cor.co.jp/ir/</a>

(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。)

#### お知らせ

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

### ● 株式分布状況



## ▶ ホームページIR情報

財務情報、株式などのIR情報をホームページでもご覧いただけます。

URL <http://www.j-tec-cor.co.jp/>



TOPページから



IR情報へ



株式会社 ジェイテック

〒104-0031 東京都中央区京橋1-10-7 KPP八重洲ビル



この冊子は環境保全のため、環境に優しい食物油インキを使用し印刷するとともに、針金を使わず「エコ製本」にて製本しています。

